

合気道競技の教材化試案：2012年武道の義務教育化への対応

A tentative Curriculum for Teaching Competitive aikido : In Response to a Requirement to Teach
Budo in Japanese Junior High School in 2012

スポーツ文化研究領域

5008 A 063 - 2 山口升呉

指導教員 志々田文明 教授

序章

平成 24 年から中学校で武道が必修化されることになった。新しい学習指導要領では武道として、柔道、剣道、相撲のほか、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができるとしている。その他の武道には合気道も含まれている。これらの中で中学生が学ぶ武道として適切なものは何か、中学生が学ぶ武道に必要な要件は何かなどを検討した時、合気道も他の武道と同等またはそれ以上にすぐれた特質があると考えられる。新しい「中学校学習指導要領解説・保健体育編」の[第 1 学年及び第 2 学年]の武道の内容として「勝敗を競いあう楽しさや喜びを味わうことのできる運動」、「自由練習や簡単な試合で攻防を展開できるようにすること」と定義しており、競技・試合が出来ることを前提としていることは明らかである。しかし、合気道の多くの会派では試合は行っていない。試合を行う指導体系を持っている会派のなかで最も教育的な体系を持っているのは、富木謙治が創設した日本合気道協会と思われる。

そこで、本論文の課題を次のように設定した。

- (1) 合気道の系譜・理論・技術の分析・整理
- (2) 合気道乱取り競技史における諸問題の検証
- (3) 中学生に適した合気道の乱取競技方法を考える
- (4) 合気道の指導計画及び学習の内容の提案

第 1 章 合気道の系譜・理論・技術

(1)合気道は近代になるまで、柔道と共に戦場武術から発祥し近世には柔術と呼ばれていたものである。明治時代になってから、嘉納治五郎が古流柔術なかんずく起倒流と天神真揚流から、襟袖をつかんでの「投げ技」と倒れ

てからの「固め技」を中心とした「乱取り」、「試合」のできる講道館柔道を創始した。一方、当身技や関節技の分野ではこの近代化から取り残され、約束稽古「形」による反復稽古が主流となっていた。富木は嘉納の柔道の近代化に倣い、合気道の近代化に取り組んだ。まず、膨大な数の古流柔術のわざの中から、当身技、関節技、浮技からなる「基本の形」十七本を制定した。これらの技を嘉納の「柔道原理」の自然体の理、柔の理、崩しの理によって競技化を構想したのである。

(2)合気道の乱取り競技・試合の歴史

合気道の乱取りの研究は早稲田大学体育局に合気道部が認可されてから本格的に始まった。当初は運足、手刀単独運動からなる「柔道体操」による鍛錬であった。次に基本の形による「掛かり稽古」が始まった。次の段階では、お互いが徒手で自由に技を取り合うが、きれいにかかれば抵抗しないでかけられる「ひきたて稽古」に進化していった。ここから「徒手乱取り」による「試合」へと発展していき、対外試合も行われるようになっていった。しかし、「徒手乱取り」では合気道の特徴である「離隔態勢」の維持が困難で、すぐに、お互いの身体が接近しがちであった。この欠点を解消するために、「短刀乱取り」が考案された。これは一方が相手の上体を短刀で一足一刀の間合いから突く。他方はこれをさばいて、合気道の技をかける。一定時間をもって短刀を交代するという試合形式である。現在、日本合気道協会の指導系列にある団体の大会はこの形式で試合が行われている。

早稲田大学と慶応義塾大学の合気道部の間でも「早慶戦」が模索された。早稲田は試合化を義務付けられて誕生した運動部であり、慶応は試合をしない(試合をしてはならない)会派の「気の研究会」の指導系列にあり、

「試合」に関してはいわば「水と油」の関係であった。筆者は「早慶戦」で「試合」が確立されれば、学生合気道界を会派はそのままでも、試合の場によって統一できると考えた。試行錯誤を重ねながらも、現在は「徒手乱取り」と「短刀乱取り」の2種目で試合を行っている。早慶戦をより高い技を目指すための実験・研究の場ととらえ、少年指導への応用を考えてきた。

第2章 中学校体育授業における合気道競技

現在は「短刀乱取り」が主流となっているが、心身ともに発育段階にある中学生には、柔軟性、巧緻性、身体の左右の発達均一性などをより考慮すると、筆者は「徒手乱取り」の方が適切であると判断した。お互いに、相手の顔面を掌底や手刀を使って当身技で攻める。正しい姿勢で顔面に当てられれば、倒さなくとも有効とする。顔面には生理学的急所が集中しており、武道では顔面への攻撃は避けなければならない。攻撃された方が「避けよう」とすればするほど、技をかけるチャンスが増えることになり、「攻防」の楽しさ、面白さを体験できることになる。

そこで、本章では、指導計画・学習の内容を詳細に作成する。学年別に、また毎授業時間ごとに授業の始めから終わりまでの流れに沿って授業内容の計画を右表のように作成した。「礼法」から合気道の「基本動作」「基本の技」などを学び、「掛かり稽古」、「ひきたて稽古」で生きた技をかけられる喜びを体験できるように、「体捌き競技」、「簡易な試合」で競いあうことが出来るように考案した。カリキュラムの作成に当たっては安全性、技の習得の容易性、技と技の連絡性などに独自の考え方を盛り込んだ。受け身は身体を保護するためには必須であるが、生徒の関心との兼ね合いから、習得する技に対応する受け身を漸次学習することとした。又、基本の技の習得についても、1本から17本を順番通りに指導するのではなく、1本目の正面当ての後に10本目の脇固めというように技と輪の連絡性の観点から指導の順を構成した。ここでは紙幅の制約から第1学年の1部を掲載する。

表 中学第一学年の学習計画例

学年	第1学年	
時間	15時間	
学 習 計 画 例	1	オリエンテーション 礼法(立礼・座礼) 準備体操 真向法 構え(自然体・右構え・左構え・正立・正坐) 受身(後方受け身) 整理体操
	3	準備体操・運足 手刀合わせ(前後) 手刀操作(内回し・外回し) 体捌き競技(相対) 受身(後方受け身)
	4	準備体操 運足・入り身運足 手刀合わせ(前後・左右・回り込み) 受身(後方受け身) 基本技[正面当て]
	8	準備体操 運足・入り身運足 既習の基本技三本の復習 掛かり稽古(既習基本技三本) 掛かり稽古で何本とれるかの競技
	12	準備体操 運足・入り身運足・体捌き 既習技六本の復習 掛かり稽古(既習技六本) 裏技の掛かり稽古 (正面当て 脇固め・引き倒し) (逆構え当て 押し倒し・下段当て)
13	準備体操 運足・入り身運足・体捌き 体捌き競技 既習基本技六本の復習 掛かり稽古(既習技六本) 裏技の掛かり稽古	
15	掛かり稽古で何本とれるかの競技 第1学年の授業のまとめ 第2学年で学習するまでの心構え	